
お泊りの夜に・・・～コナンside～

音符

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お泊りの夜に・・・～コナンside～

【著者名】

ZZマーク

N9451E

【作者名】 音符

【あらすじ】

比較的、お泊りの夜に・・・と同じです^_^コナン曰線です・・・

俺の名前は工藤新一

けど今はAPT-X4869という薬を飲んで体が幼児化してしまい、江戸川コナンとして生きている。

俺には今、付き合ってる奴がいる。

灰原哀にしていう俺と同じAPT-X4869にして薬を飲んで体が幼児化してしまった元黒の組織の人間だ。本名は宮野志保。

組織を壊滅させた俺達は中学2年生になっていた。

哀

二十九 人ねがんだけと・・・ 飲む

「お、サンキュー哀」いつもの当たり前の光景。ちなみに阿笠博士は、というと学会で九州まで行つて明後日まで帰つて来ないらしい。まあ、それで心配した俺が泊まりに来たんだけどな。

「そろそろ夕食の時間だな」

「そうね。今作るから待つてよ

哀が夕食を作つてゐる間、俺は推理小説を読んでいた。

「コナン、夕食出来たわよーっ」

口

「ああ、今行く」

俺達は仲良く夕食を食べ終えると、ソファードベッドにひつひつていた。

口

「哀・・・俺今すっしゃ幸せだ。哀の手料理食べられて、哀といつして一緒に睡られて」

哀

「コナン・・・私も幸せよ。貴方と一緒に睡られて」

コナンは哀の脣にそっと自分の脣を重ねた。その後俺達は順番に風呂に入り寝る準備をした。

哀

「おやすみ、コナン」

と、哀が言つて出て行つたけど、眠れそうになくて哀の部屋へ向かつた。

ガチャリ、と哀の部屋のドアをあけると、哀がベッドの上で本を読んでいた。口

「哀・・・お前まだ起きてたのか?」

哀

「ええ・・・なかなか眠れなくて」

口

「じゃあ俺が一緒に寝てやるうつか?」

哀

「えつ・・・?」

俺は哀の返事を聞く前に哀をベッドに押し倒していた。

哀

「きやつーーーな、何するのよコナンつーーー。」

哀が抗議の声を上げたが俺は構わず哀を押さえ付け、哀の脣に口付けた。哀

「ひつ……ん……」

俺は一皿を離したが、抵抗してくる哀が可愛くて……あつという間に理性が切れた俺は哀にさつきとは違つ……長く深いキスをした。

哀
「つ……ん……んつ……ん……ん……」

ふつ……

哀の甘い声が聞こえなくなつたと思いつく離すと、べつたつとした哀が頬を赤くして息を切らしていた。
その目は涙が溜まつて潤んでいた。

口

「哀……『めんな……苦しいと思こませまつて……でも俺、そんくらい哀の事が好きなんだよ……愛してるんだよ』

すると哀はさつきの表情のまま

哀

「……分かってるわよ、そのくらい……それに私も……哀が途中で言つのを止めたから

口

「私も……？」

と聞き返した。

哀

「……聞かなくても分かるでしょ？」

と顔を反らす哀が可愛くて意地悪をしたくなり

口

「分かるけど、聞きたい」

と言った。

案の条、哀に

哀

「……こじわる……」

と言われたが

口

「いいだろ、別に・・・」

と、言い張る。

哀

「／＼／＼分かったわよ。・・・私も貴方が大好きよ。・・・愛して

るわ

俺はさつきより赤い顔をして、哀がさうに可愛くなつて、哀の顔
中にキスをした。

その後俺達は、仲良く一緒にベッドで添い寝をした。

-END-

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9451e/>

お泊りの夜に・・・～コナンside～

2011年2月1日04時36分発行